

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	TOSHO BLDG	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊田市栄町7丁目6-2, 6-5, 6-6, 6-7, 6-8, 6-9, 6-10	構造	RC造
用途地域	商業地域、第一種住居地域	平均居住人員	260 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年5月10日
敷地面積	2,090 m <sup>2</sup>	作成者	石川 春乃
建築面積	1,041 m <sup>2</sup>	確認日	2024年5月30日
延床面積	2,969 m <sup>2</sup>	確認者	石川 春乃

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 74% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 74%

④上記+: 74%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 0.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
TOSHO BLDG

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体

<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり			資料①-1:壁長さ比率	0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					3.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-
1 空調配管の更新性					3.0	0.17		-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17		-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11		-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11		-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22		-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30		-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③	資料⑨外構図・緑化指数等算定シート	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				資料⑨外構図・緑化指数等算定シート	2.0	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.4
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.67	3.0	5.0	0.30		-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.64	3.0	4.6	0.30		-	4.6
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水				P-3衛生設備器具表、資料④節水便器	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63		-	2.5
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-		3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-		3.0	1.0	0.21		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				資料⑤MSDS壁紙接着剤ルーアマイルド	3.0	4.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤						-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				炬計図・資料⑥吹付硬質ウレタンフォームA種1=ノンフロン断熱材ODP-0		3.0	0.50		-	
3 冷媒				資料⑧空調設備機器表、資料 新冷媒R32利用	3.0	3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30		-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率74%		4.0	0.33		-	4.0
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				資料①-3、③気象データ豊田 資料⑦卓越風向図		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自	資料⑧外構図より適切な量と位置に駐輪・駐車スペースを確保		3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自			3.0	1.00		-	
2 振動			独自			-	-		-	
3 悪臭						-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制						3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						3.0	-		-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 TOSHO BLDG

計画上の配慮事項	
総合	住宅街に立地する1階の一部が店舗となる事務所ビルである。周辺は学校、病院、公園など生活環境に関わる施設が多くあり、地域住民が親しみやすい建築物を目指す。建築物単体では、省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	事務所の執務環境を考慮し、開放可能な開口部を多く設けることで自然換気性能を確保、また遮音性の確保や採光による昼光率向上を実現した。
Q2 サービス性能	建物利用者のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内植樹など緑地計画や景観に関しては、建物配置計画による制約の中で、量の確保が十分といえない。一方、防犯性の観点からは見通しの良いフェンスや防犯カメラの設置等、周辺環境に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー	建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、建築物の1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	再利用可能な部材、リサイクル材の利用に関しては十分な取り組みとは言えないが、有害物質を含まない建築材料については積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	周辺は住宅街、学校、病院、公園など、地域住民が利用する施設が多くある。事務所の1階に店舗部分を設け、周辺住民や地域に開けた建物を目指した。用途上、廃棄物の保管スペースや駐車場の台数確保など、建物利用者の日常使いがスムーズになるよう配慮した動線を検討した。
その他	